

I 調査研究の目的

県内知的障がい特別支援学校における現状調査を行い、取組に関する教員の意識や授業実践での実態、課題を明らかにし、大分県の知的障がい特別支援学校の授業づくりの方策を示すための「知的障がい教育における個別最適な学びと協働的な学びを充実させる授業デザインシート(試案)」(以下、「授業デザインシート」)を作成することを目的とする。

II 調査研究の方法

1 現状調査 県内知的障がい特別支援学校での個別最適な学びと協働的な学びへの意識や取組の現状を把握するため、アンケート調査を行った。

<対象> 県内知的障がい特別支援学校14校(県立校14校、大学附属校1校)の学部主事40名

<方法> Wordデータへの直接入力、Googleフォームのいずれかの方法で回答、回収を行った。

2 先進校視察

<対象> 個別最適な学びと協働的な学びの充実を研究主題としている県外の知的障がい特別支援学校2校

<方法> 授業観察を行ったのち、校内研究の概要と観察した授業についての聞き取りを実施。

III 結果と考察

1 現状調査の結果と考察

県内知的障がい特別支援学校における課題が3点明らかになった。

【課題①】教員間で個別最適な学びと協働的な学びについての定義がなく、授業レベルで共通の意識を持つことや授業イメージを持って取組むことが十分にできていない。

【課題②】協働的な学びの活動の選択肢が少なく、児童生徒の個を生かすことのできる活動、協働する相手などの設定が十分でない。

【課題③】協働的な学びにおいて、目的やテーマの設定の仕方やそれを共通のものとする意識が持っていない。

IV 「授業デザインシート(試案)」の作成

A3判1枚の紙面。個別最適な学びと協働的な学びの提供に欠く事のできない項目を「指導の個別化」「学習の個性化」「協働的な学び」に分けて整理した。児童生徒の最適な学びの把握や学習内容設定の視点に沿って授業構想段階でチェックしていくものとして作成。

ポイント1

個別最適な学びと協働的な学びについて定義づけ、図式化した [課題①に対応]

ポイント4

共通のテーマを授業展開の柱として設定 [課題③に対応]

ポイント2

児童生徒の「やってみたい」「なりたい」の把握の視点を示した。 [先進的取組⑦に対応]

ポイント5

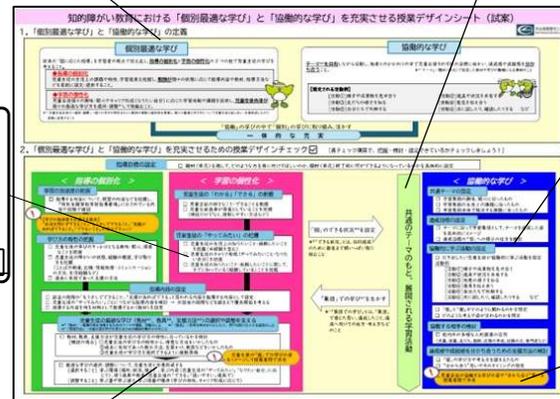
言語コミュニケーションを伴わない活動から話し合い活動までの6つの協働的に学ぶ活動場面の例を示した。 [課題②、先進的取組⑦に対応]

ポイント6

協働する相手の検討の視点について示した。 [課題②に対応]

ポイント3

自己の理解に困難さがみられる知的障がいの児童生徒が最適な学び方を選択するために、児童生徒の学び方の特性や有効な指導方法、興味関心、キャリア形成の方向性に応じて学習活動や課題、教具を複数準備したり、「個」に応じた選択・調整になるために合意形成をするなどの選択・調整の視点を示したりした。 [先進的取組⑦に対応]



2 先進校視察の結果と考察

先進校2校の取組のうち、本県の授業づくりに参考となる先進的取組は以下の3点。

【先進的取組⑦】児童生徒のキャリア形成を「やってみたい」「なりたい自分」と捉え、適切に把握し、小学部段階から児童生徒のキャリア形成の方向性に応じた学習活動や課題を設定している。

【先進的取組⑧】児童生徒の最適な学び方を把握し、児童生徒自身で自己選択できるよう教材、教具などを複数準備している。

【先進的取組⑨】児童生徒の引き出したい協働的な学びの姿をイメージし、そのための活動を具体的に示し、選択できるようにしている。

V 成果と課題

【成果】明らかになった本県知的障がい特別支援学校における課題をふまえ、先進校の先進的取組を参考にしながら、「授業デザインシート(試案)」の作成し、ホームページに公開することができた。

【今後の課題】 ①「授業デザインシート(試案)」の有効性や内容を精査し、さらに授業づくりに活用できるものにしていく必要がある。

②個別最適な学びと協働的な学びの授業実践事例を蓄積し、好事例をホームページで周知する。

※詳細は、特別支援教育部「知的障がいのある子供の個別最適な学びと協働的な学びを提供する授業の在り方(1年次/3年)ー現状調査と「授業デザインシート(試案)」の作成ー」報告を参照